

第三十五日目

師 範：豊臣秀吉は織田信長を継いで、天下統一に成功しました。



しかし秀吉がすぐれていたのは、信長にできなかった、徹底した太閤検地や刀狩や兵農分離をすすめたことでした。

新しい武家政権の全国支配を支えるしくみが、秀吉の手によって、秀吉の権力によって作り上げられたことでした。

その後260年以上も続く江戸時代のしくみの基本は、このときにつくられていたのです。

小田原の北条氏を攻め、奥州の伊達氏に従わせて全国統一をした。

1590年 秀吉が天下統一をする。

この年を覚えましょう。

ペン太：これはどうでしょうか。



「秀吉統一後旧例となった荘園制」

「(統)いつご」は15,「きゅうれい」は90です。

太閤検地によって、荘園制は完全になくなったといえますから。

師 範：なかなかよく考えていますね。

耕作している農民が土地の権利をもつようになり、検地帳に登録され、田畑の収穫高を評価したものと合わせて年貢が決められました。

大名と農民との関係がはっきりしたのです。

農民は勝手に別の職業につくことはできなくなりました。

全国統一したものさしと単位で、田畑を測りなおしていきました。

あいまいな土地はなくなり、米の石高で位までも表されるようになりました。

太閤検地は1582年から98年まで行われています。この結果として荘園制が一掃されるということですから、天下統一によって荘園制がなくなったと結び付けるのは誤解というものです。

コン太：むむむむむ。



難問だ。